



令和6年度リーディングDXスクール事業
生成AIパイロット校
成果報告会

令和7年1月22日
松阪市立米ノ庄小学校
校長 楠本 誠

はじめに

■ 2012～2016 公立中学校 教諭/指導教諭

- フューチャースクール実証校
- 一人一台タブレット 授業実践

■ 2017～2023 教育員会 指導主事

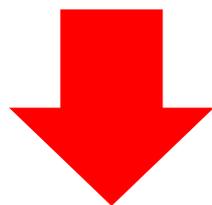
- GIGAスクールの端末整備/活用促進

■ 2024 公立小学校 校長

- リーディングDXスクール推進事業
- 生成AIパイロット校

はじめに

(小学校の児童は)
使えません



(活用できるところから)
活用しましょう

初等中等教育段階における
生成 AI の利活用に関するガイドライン

文部科学省 初等中等教育局

令和6年12月26日

Ver. 2.0

小学校での生成AIの活用にあわせて 取り組んだこと

- 1 これまでの学びを活かした計画作り
- 2 実態把握 (10の不安：生成AIの活用)
- 3 実践
実践① 教頭実践
実践② 体験/経験とイメージ化
実践③ できるところからやってみる

1 これまでの学びを活かした計画作り

1 0の不安 ～一人一台タブレットを活用した授業について～

- ① ICT機器は無くても授業はできるので…
- ② 私、ICT機器を使ったことがありません！
- ③ 毎日、忙しいので研修を受ける時間が無い
- ④ ICT機器の使用は効果があるの？
- ⑤ 情報モラルに関わるトラブルが心配です…
- ⑥ 故障や破損したときはどうするの？
- ⑦ 視力低下などに影響はないの？
- ⑧ 書く力などが低下しないの？
- ⑨ 授業中困ったらどうしたらいい？
- ⑩ Windowsで作った教材、使えますか。

これらの
不安の解決へ

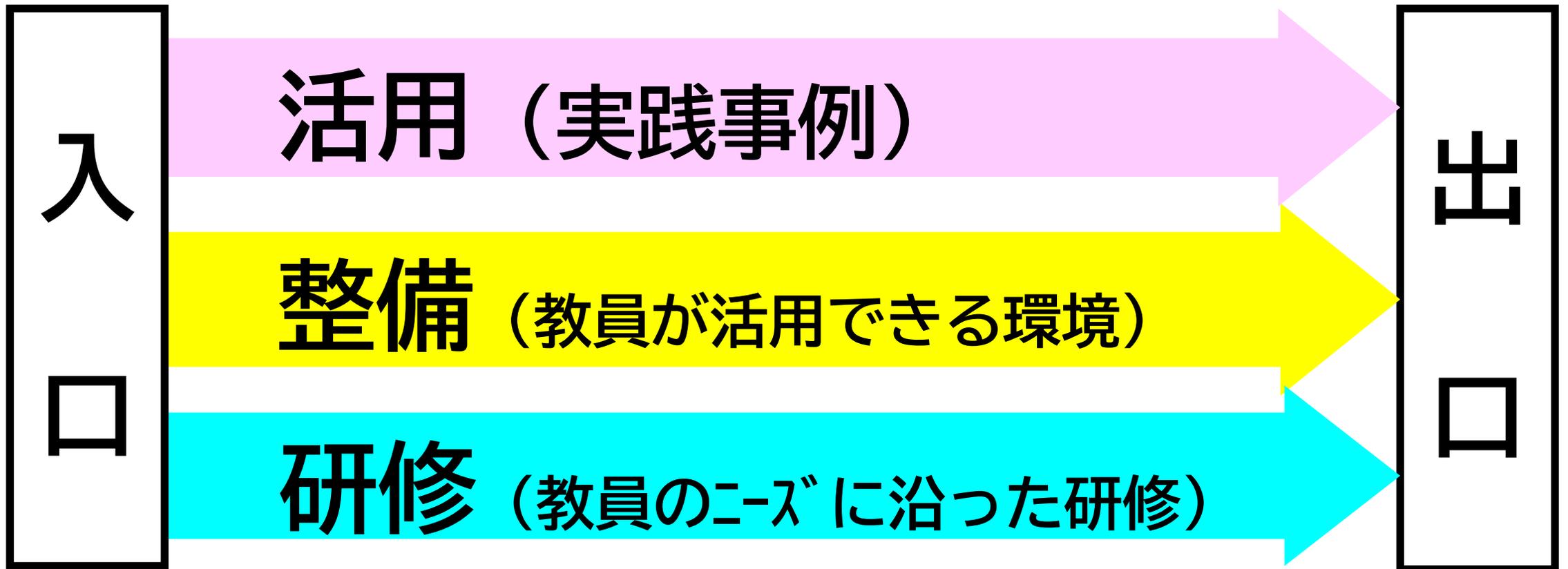
1 これまでの学びを活かした計画作り

不安解決につなげる3つの教員視点

可能性	ICTで「できること」の体感
	「自分もできる」の体感
日常性	日常化/継続化に向けた活用
	目的に応じた活用(計画と実践)
拡張性	人/場所/目的に応じた活用
	総合的/複合的な活用

1 これまでの学びを活かした計画作り

学校での推進に向けた3つの柱



1 これまでの学びを活かした計画作り

生徒が学習効果につながると実感したカメラの活用法

① 撮る



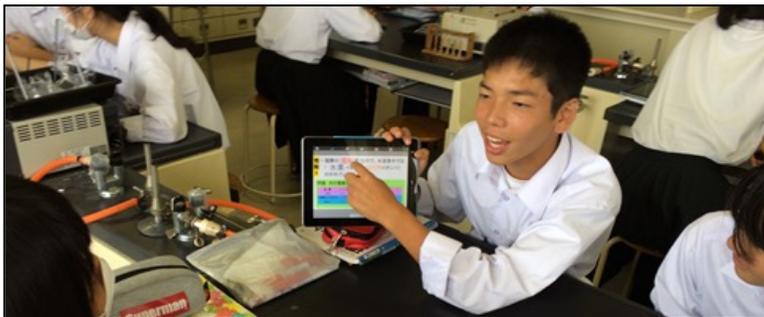
② 書く



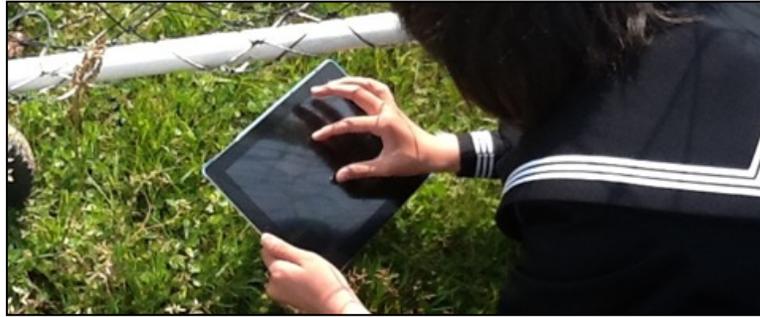
③ 見る



④ 見せる



⑤ 拡大する



⑥ 送受信する



2 実態把握

～教育での生成AIの活用について～

1 0の不安

- ① AIが無くても授業や仕事はできる
- ② 私、AIを使ったことがありません
- ③ 操作等が難しそう
- ④ AIの使用は効果があるの？
- ⑤ 著作権など新しいモラルに関することも知らない
- ⑥ 使用前の段階で、子どもが活用する力の差がありそう
- ⑦ 毎日、忙しいので研修を受ける時間が無い
- ⑧ 子どもの考える力などが低下しないの？
- ⑨ 授業での活用イメージができない
- ⑩ 子どもに教える自信がない

これらの
不安の解決へ

3 実践① 教頭実践

■ 教頭先生との打ち合わせ

生成AI活用は 校務改善の一つとして

チーム学校で学校改革へ校務のDXに向けた計画



Point

- たいへんと思った時が改革への始まり
- 「SuperTeacher 提案」から「教頭/担当提案」に
- 提案は「現状」「課題」「対策」で



5月13日 教頭提案



担当からの提案発信

[連絡] teamsでの連絡の仕方について

これから基本的な連絡はteam s チャットを活用していきたいと思います。

目的は「会議打合せ時間の短縮のため」です。

軽微な連絡等はこちらで共有することで

- ・先生方の自分の時間場所で確認できる
- ・記録をいつでも見直せる
- ・軽微な連絡はteam s で行い、対面時に時間をかけたい事案（子どもに関すること・学校全体に関する事など）に時間が取れると思います。

現在タブレットがない方もいらっしゃいますので、共有のタブレットを準備できるように進めておりますのでこの点もお知りおきください。ご協力をお願いします。

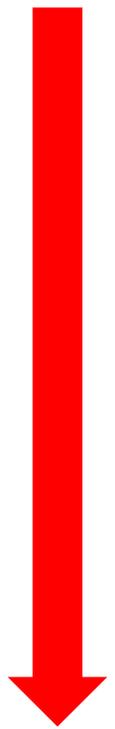


「いいね」で参加確認と参加への一歩



3 実践② 体験/経験とイメージ化

■ 生成AIとのやりとりを体験・経験

- 
- ① 論点比較と一覧表作成
 - ② 画像認識
 - ③ 問題文の読み取りと問題解説
 - ④ アンケート分析
 - ⑤ 発出文書の作成

■ 体験・経験でイメージ化/できるところから活

用

① 論点比較と一覧表の作成



春と秋の違いをまとめたい。違いが明確になる5つの視点で比較して表であらわして。

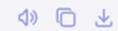
StudyPocket

春と秋はどちらも移り変わりの季節であり、日本を含む多くの地域で特有の特徴を持っています。以下の5つの視点で、春と秋の違いを比較してまとめます。

視点	春	秋
気温の変化	寒い冬から暖かい夏へと移り変わる時季で、気温が上昇する	暑い夏から寒い冬へと移り変わる時季で、気温が低下する
自然の特徴	草木が芽吹き、花が咲く（桜、梅、菜の花など）	葉が色づき、紅葉が見られる（カエデ、イチョウなど）
文化的行事	入学式、花見、春祭り	運動会、収穫祭、紅葉狩り
感じられる印象	新しい始まり、エネルギーの高まり	物寂しい美しさ、落ち着きと成熟感
日照時間	日が長くなり、日照時間が増える	日が短くなり、日照時間が減る

[CSVをダウンロード](#)

このように、春と秋は異なる気候や自然の変化、文化的行事を特徴とし、それぞれの季節に特有の印象を私たちに与えます。春は生命の誕生や始まりを象徴し、秋は成熟や収穫を象徴する季節として、多くの人々に様々な感情を呼び起こします。



② 画像認識



この教室環境の改善点は

StudyPocket

教室の環境を改善するためには、いくつかの点で注意を払うことが考えられます。以下はこの画像に基づくいくつかの改善点の例です：

1. 清掃用具の配置:

- ほうきとちりとりが床に置かれたままになっています。使用後は、安全で適切な収納場所に戻すことで、教室内の安全性と整頓を保ちやすくなります。

2. 机と椅子の配置:

③高校の入試問題にチャレンジ

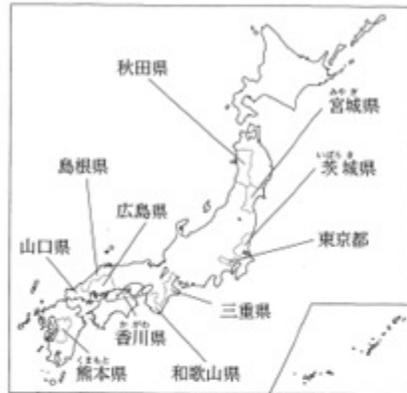


2 次の略地図を見て、あとの各問いに答えなさい。(9点)

(1) 略地図に示した熊本県にあり、カルデラをもつ火山の名称は何か、次のア～エから最も適当なものを1つ選び、その記号を書きなさい。

- ア. 有珠山
- イ. 箱根山
- ウ. 阿蘇山
- エ. 霧島山

(略地図)



(2) 資料1は、略地図に示した秋田県、宮城県、三重県、和歌山県における、農業産出額のうち、米と果実の産出額、漁業産出額を示したものである。資料1のaとcにあてはまる県名の組み合わせはどれか、次のア～カから最も適当なものを1つ選び、その記号を書きなさい。

(資料1)

	農業産出額(億円)		漁業産出額(億円)
	米	果実	
a	795	30	718
b	1,078	89	27
c	78	759	127
d	270	70	361

[注：数値は2020年のもの]
〔データでみる県勢2023〕から作成

- ア. a-秋田県 c-宮城県 イ. a-秋田県 c-和歌山県
- ウ. a-宮城県 c-三重県 エ. a-宮城県 c-和歌山県
- オ. a-和歌山県 c-三重県 カ. a-三重県 c-秋田県

1と2を解いて

令和6年度三重県立高等学校入学者選抜学力検査問題社会科
<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/001125163.pdf>

StudyPocket

問題を解いてみましょう。

問1

カルデラをもつ火山の名称として考えられるのは以下の通りです。

- ・ア：有珠山
- ・イ：箱根山
- ・ウ：阿蘇山
- ・エ：霧島山

カルデラで有名な火山として、熊本県にあるのは「ウ：阿蘇山」です。

問2

資料1に基づいて、米や果実の産出額、漁業産出額の情報を分析します。

- ・a：米の産出額が795億円、果実が307億円、漁業が718億円
- ・c：米の産出額が787億円、果実が591億円、漁業が272億円

これらのデータを、それぞれの県に当てはめます。

考察

- ・宮城県は漁業が盛んであるため、漁業産出額が高い700億円台は宮城県が該当します。従って、aは宮城県と推測できます。
- ・和歌山県は果実の産出額が高いので、果実が591億円のcが和歌山県と考えられます。

したがって、察し得る回答は：

- ・a：宮城県（漁業産出額が高い）
- ・c：和歌山県（果実産出額が高い）

この条件に最も適合するのは選択肢工です。

- ・工：a-宮城県、c-和歌山県

それでは、最終的な答えは以下の通りです。

- ・問1の答え：ウ（阿蘇山）
- ・問2の答え：工（a-宮城県、c-和歌山県）



3 実践③ できるところからやってみる

実践事例

活用者	活用項目	活用の内容
管理職	校務（事務）	アンケートの分析
管理職/教員	校務（事務）	発出文書作成のアイデア
管理職/教員	校務（事務）	文書添削
教員	校務（授業づくり）	教材作りのアイデア
教員	授業	情報モラルの授業の実施

3 実践③ できるところからやってみる

児童の評価ルーブリック

	課題設定・めあて	情報収集	整理・分析	表現する	ふりかえり
とてもよくできた S	身近なところ（前回の学習や普段の生活）から課題を設定し、見通しをもってめあてを決めた。	自分に必要な情報を、校内（ネット、教科書、本、友だち、先生）だけでなく、校外（地域の人、関係機関）からも選択して、調べることができた。	情報を整理・分析して様々な視点で考えを持つことができた。	伝わりやすいように工夫して表現することができた。 （図、写真、色、配置、構成など）	具体的にできたこと、改善点、次の挑戦を考えることができた。
よくできた A	友だちの考えを参考に、課題設定し、めあてを決めた。	自分に必要な情報を調べることができた。	情報を整理・分析して自分の考えを持つことができた。	伝えたいことを明確にし、表現することができた。	できたことと次の挑戦を考えることができた。
もう少し B	なんとなく課題設定し、めあてを決めた。	なんとなく情報を集めた。	情報を整理・分析するのが難しかった。	伝えることができた。	できたことを考えることができた。
	文章＋評価（SAB）	評価（SAB）	評価（SAB）	評価（SAB）	文章＋評価（SAB）

成果と課題

教頭実践

- ・多種多様な文書进行处理するため、必要な情報は使える形で欲しい。
- ・昨年度フォルダの活用、生成AIの活用は何を作るかによって使い分けていた。
- ・初めての文書作成についてはアイデアとして得られるだけでも助かった。0から考える必要がなく、時短になった。

教頭の生成AI活用(まとめ)

内容	参照
昨年度実施行事 (例:運動会開催通知)	昨年度フォルダ
昨年度未実施行事 (例:研究発表会開催通知)	生成AI

- 文書作成では、既存の文書をそのまま活用したい。
- チェック作業の軽減など時短を求めている。

内容	求めること
発出文書 (行事案内、提出文書)	回答
新規発出文書 データ処理	アイデア

- アイデア出しの活用には一定の効果を認めているが、日々の業務で活用する割合は高くない。(教頭は回答を求める頻度が多い。)

成果と課題

教員実践

- ・教員が活用できる場面は思った以上にあった。
活用すると効果的と感じたことも多かった。
 - 活用するともっとこうしてみたいと感じた。
 - そのためにはより日常的に体験できる環境づくりをしてきたい。

成果と課題

教員実践

- ・ 児童が活用するためには読解力、操作力が必要
- ・ 児童にどこまでAIの真偽を求めるかが課題
 - 大人でも真偽が難しいことがあった
 - これを子どもに委ねるのは難しい
- ・ 児童の生成AIとのやりとりも学習方略の一つとして取り入れてみたい

教員の生成AI活用(まとめ)

内容	求めること
学級づくり/授業づくり/指導案/成績処理	アイデア
発出文書(通信、実施要項)/成績処理	回答

- 教員はアイデアを求める頻度も多い
- 校務に関しては多くの活用場面がある

活用の場面	活用にむけて
授業での活用	<ul style="list-style-type: none">・授業準備等の活用は効果的である・授業での活用は課題がある
校務での活用	<ul style="list-style-type: none">・校務での活用は効果的である